

講演 Conférence 2

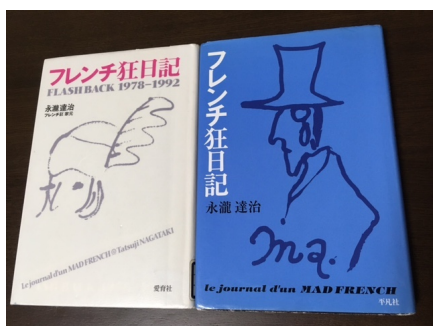
フランス歌謡界の黄金時代 L'âge d'or de la musique française

講師：永瀧達治 NAGATAKI Tatsuji (音楽評論家 Critique musical)

1960年代から現代までのフランス歌謡の変遷を、世界のさまざまな土地からやってきてフランスの国民的スターとなったアーティストたちの活躍を通じてたどります。Youtubeを見ながら楽しい時を過ごしましょう。 司会：粕谷雄一（金沢大学）

ピアフ、ブレル、ブラッサンス、ゲンズブール・・・、彼らの死は常に当時のマスコミの大半を占拠した。その度に時代が変わるのである。美空ひばりが死んでも、どこの新聞が一面を潰し、数十ページの特集を組んだらうか？ あらゆる雑誌が彼女を表紙にしたらうか？ 『人気スター』がいても『国民的スター』というのは日本には存在しなかったのではないだろうか？ モンタンは特別にしてもピアフやブレルは政治的な活動をしたわけではなかった。この違いは何なのだろうか？ フランスで、こういう事件に接すると、大衆音楽のあり方や文化的価値の違いを思わずにはられない。

文化大臣ジャック・ラングは『イタリア移民の息子が爪の先までフランス人となり、世界の市民となった』と語った。



（「追悼、イヴ・モンタン」、永瀧達治著『フレンチ狂日記 パリ発ポップス社会学』（愛育社、2000）所収

永瀧達治 NAGATAKI Tatsuji

Longtemps actif dans le milieu musical à Paris, à Tokyo et à Kanazawa, le critique Nagasaki Tatsuji nous révèle la vraie dimension mondiale de la musique française depuis les années 1960.

